

# 産業厚生常任委員会資料


令和元年9月5日

産業振興部 農政課

# 目 次

○もち麦を用いた地域活性化に向けての取り組み内容について	・・・・・・・・・・・・・・・・P1～P2
------------------------------	-----------------------

もち麦を用いた地域活性化に向けての取り組み内容について

<b>1. キラリモチとは</b>	農研機構 西日本農業研究センター資料より抜粋
<p>キラリモチ（現在、認定品種銘柄取得を検討中で、取得後この名称を使用します。）                  農研機構 四国研究拠点で育成した“もち麦”の品種（2条大麦、はだか麦）</p> <p>特徴1：加熱・炊飯後に変色しにくい                  特徴2：もちもちで美味しい                  特徴3：β-グルカンが豊富</p> <p>※β-グルカンは大麦の水溶性食物繊維の主成分                  大麦β-グルカンの健康機能性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆血中コレステロールを正常化する作用</li> <li>◆食後血糖値を緩やかにする作用</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・腸内フローラの改善</li> <li style="width: 50%;">・メタボ改善作用（内臓脂肪の低減）</li> <li style="width: 50%;">・満腹感の持続作用</li> <li style="width: 50%;">・血圧降下作用</li> </ul>	
	

**2. これまで**

年 月	もち麦栽培の取り組み
平成29年 春	国産もち麦栽培について、市内実需企業から地元区長や市内麦生産者などへ相談があった。そして、市内麦生産者が栽培などに関してJAみのりに相談を持ちかけ、加西農業改良普及センターと加東市が加わり検討が始まった。 検討事項 (1) 国内産麦の状況 (2) 視察（農研機構 西日本農業研究センター） (3) 種子体制（農研機構からの種子提供）
平成29年 9月	JAみのりが、シロガネコムギからもち麦への切り替えについて、市内麦生産者へ説明会を開催
平成29年11月	約7haに播種し、試験栽培を開始
平成30年 5月下旬 (平成30年産)	播種時期前（H29.10）の長雨による発芽不良などが影響し、収穫量が約4トンと少なかった。（JAみのりや加西農業改良普及センターなど関係者が栽培方法など検証）
平成30年11月	再び約39haに播種、単収100kg/10aを目指した。
令和 元年 5月下旬 (令和元年産)	播種時期や収穫前の天候に恵まれ、予定数量を超える収穫があった。〔収穫量 約60トン（種子用15トン含む）〕

**3. これから**

令和元年 9月	令和2年産作付けに向けた栽培講習会の開催
令和元年11月	もち麦を市内約110haで栽培開始
令和元年12月～	ほ場視察、栽培研修
令和2年 5月下旬 (令和2年産)	収穫目標数量 約200トン

#### 4. 市の取り組み

平成31年4月17日、もち麦の活用について関係者が協議する「加東市もち麦活用協議会」を立ち上げる。（会長に副市长、事務局は加東市）

参加者：麦生産者、JAみのり、加東農林振興事務所、加西農業改良普及センター、加東市、アドバイザー

◎協議会に3部会を設け役割を分担

**栽培部会**【部会長：加西農業改良普及センター】

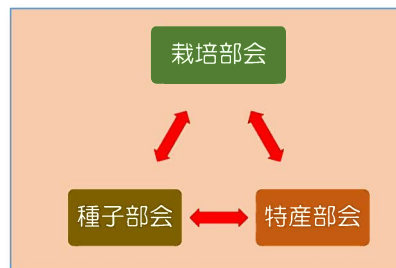
→栽培技術の向上（栽培研修、ほ場生育調査）

**種子部会**【部会長：JAみのり】

→種子の確保（原種を農研機構と契約）

**特産部会**【部会長：加東市】

→活用の推進（もち麦PR）

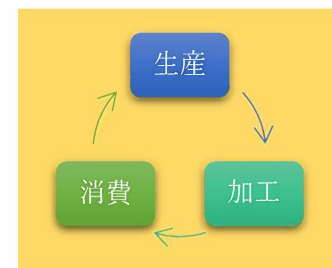


令和元年7月16日、加東市集落営農組織連絡会に「もち麦栽培部会」を設け、栽培研修などの技術向上に向けて支援する（加東市もち麦活用協議会へは、正副部会長が出席）。そして、もち麦栽培への支援を検討する。

#### 5. 地域の活性化

市内で生産されたもち麦が、市内外で消費されることにより次の効果が見込める。

- ①特産化による知名度の向上
- ②生産意欲の向上
- ③農家所得の向上



#### 6. 活性化に向けて

令和元年7月22日に加東市と㈱マルヤナギ小倉屋で地域連携協定を締結した。

連携協定の内容は、健康維持と増進、食育、活力ある農業の実現に関してなど、同社のノウハウを活かし、加東市産もち麦の販売拡大（市外へ出荷）、市内で消費を拡大し地産地消や食育での利用などを進める。

（予定）

- ①令和元年10月に令和元年産の加東市産もち麦製品を発売。
- ②社高校と、もち麦食品の開発に取り組み、商品化。